

交通安全教育のポイント(中学生編)

中学生は、移動の手段として自転車を利用する機会が多く、自転車乗用中に交通事故に遭うことが多くなっています。

また、自動車等に対する関心が高まり、道路交通についての理解も深まるなど社会人として、本格的に参加していくための準備段階にあります。

中学生の交通安全では、自転車で安全に道路を通行するために必要な技能と、知識を十分に習得するとともに、道路を通行する場合は、思いやりをもって、自己の安全ばかりでなく、他の人々の安全にも配慮できるようにしなければなりません。

■中学生の自転車事故

中学生の自転車事故の原因は、「一時不停止」「安全不確認」が5割以上を占めます。

交差点では、信号機や「止まれ」の標識がない場所でも一旦停止をして、左右を十分に安全確認しなければなりません。

また、自転車も「車両」です。急には止まれない事は言うまでもありません。

急な事態にもすぐに対応出来るよう、十分に止まれる速さで通行しましょう。

では、危険を回避するためには、どうすればいいでしょう？

まず、知っている交通のルールやマナーは守る。

また、危険を「予測」という事です。

危険を「予測」という事は、路地から子どもが飛び出してくるかもしれない、

ひょっとしたら車が曲がってくるかもしれない等、予測をして通行する事です。

※軽い事故でも必ず警察に届けましょう。

■応急救護措置の基本について、覚えておきましょう。

